

2022 年の keyword : Good health and well-being

昨今「SDGs」という言葉が巷間で無闇に喧伝されている。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略語である。2015 年国連(United Nations,UN)サミットで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 年までの行動指針」(Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)が採択された。そこで掲げられた 17 の目標が SDGs と呼ばれている。その目標の健康分野については「Goal 3: Good health and well-being ; Ensure healthy lives and promote well-being for all age(あらゆる年齢の全ての人の健康的な生活を確保し福祉を推進する)」として 9 つの標的項目が設定された。その中の「標的項目 3.8: Universal Health Coverage(UHC)の達成」は、他の健康関連の標的項目の要でもある。UHC は、「全ての人々、全ての地域社会が、財政の困難に遭う事なく必要な保健医療サービス、即ち prevention(予防)、treatment(治療)、rehabilitation(リハビリ)、palliative care(緩和ケア)を享受する事」とした。ここで保健医療サービスがこの 4 つの相から成る事と、緩和ケアを他の 3 つの相と同等に位置付けた事は全く新しい概念へと進化させている。今

後各国でこれに沿う保健医療サービスが展開がされるであろう。

その意味で 2022 年の keyword を Good health and well-being とし、SDGs 上での緩和ケアと私達の緩和ケアの思想とを比較しながら反芻する一年である事を期待している。

UHC の歴史を紐解けば、それは 1948 年 WHO が創設された時の「Health is a human right (健康は人権である)」の宣言に始まる。その後の模索を経て 1978 年 WHO/UNICEF はアルマ・アタ宣言の「Health for All(全ての人々に健康を))」の keyword のもと Primary Health Care(PHC)を構成化した。1998 年 WHO は「保健医療サービスを受ける事も人権である」と宣言した。2001 年国連を中心に発展途上国への 2015 年までの開発目標 Millennium Development Goals (MDGs)を採択、その後発展途上国などの“極度の貧困”への成果が強調され SDGs に引き継がれた。SDGs は環境問題など発展途上国のみならず先進諸国を含む全世界を対象としている。2008 年 WHO は PHC の核心として初めて UHC を概念化し、SDGs の健康関連の目標の基礎とした。UHC と緩和ケアの関係は 2014 年 WHO の依頼を受けて Worldwide Hospice Palliative Care Alliance(WHPCA) が「Universal Health Coverage and Palliative Care ~Do not

leave those suffering behind」を刊行し SDGs に繋いでいる。私の古い友人 MSKCC の Dr. Kathaleen Foley もこの本の刊行に加わっている。2018 年 WHPCA, IAHPC(International Association for Hospice & Palliative Care), ICPCN(International Children's Palliative Care Network)が緩和ケアと UHC の概況報告書を共著。同年 WHO/UN はアスタナ宣言、「PHC-アルマ・アタから UHC と SDGs へ」で UHC を達成するために PHC を強化する事を確認した。私達はこれらの歴史を鑑みながら、日々の保健医療、そして志向する緩和ケアに努める事を改めて覚悟しなければならない。